

様式1（視察用）

会派行政視察報告書

令和6年度会派 青雲倶楽部 の行政視察研修を、令和6年7月30日(火)から8月1日(木)の2泊3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和6年8月23日

名取市議会議長 長南 良彦 様

会派名 青雲倶楽部
代表 山田 龍太郎

記

- 期 日 令和6年7月30日(火)～8月1日(木)
- 参加人員 7名 議員 佐藤 繁樹 議員 鈴木 英信
議員 寺嶋 雅子 議員 二階堂 充
議員 熊谷 克彦 議員 大泉 徳子
議員 山田龍太郎
- 視 察 先 (1) 兵庫県伊丹市
(2) 京都府福知山市
(3) 京都府宮津市
- 行 程 表 別紙のとおり
- 調 査 事 項 別紙のとおり
- 所 感 別紙のとおり

令和6年 青雲倶楽部・名取維新視察研修行程表

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
令和 6年 7/30 (火)	<p>仙台空港(7:35発) ^{JAL2200便} ⇒⇒⇒(8:55着)伊丹空港(9:24発) ^{伊丹市営バス} ⇒⇒⇒</p> <p>(9:38着)宮ノ前 ^{街並み視察・昼食・徒歩} ……………</p> <p>伊丹市議会 (市立伊丹ミュージアム図書館『ことば蔵』視察) ^{13:30~15:00} …………… ^{徒歩}</p> <p>宮ノ前(15:20発) ^{伊丹市営バス} ⇒⇒⇒(15:39着)伊丹空港(16:12発) ^{バス伊丹空港線} ⇒⇒⇒</p> <p>(17:37着)福知山駅 ^{徒歩} ……福知山市内(宿泊)</p>	<p>兵庫県伊丹市議会</p> <p>所在地 伊丹市千僧1-1</p> <p>電話番号 072-783-1344(事務局)</p> <p>調査項目 1 伊丹市立図書館ことば蔵について</p>	<p>福知山アークホテル</p> <p>所在地 福知山市末広町1-24</p> <p>電話番号 0773-24-3333</p>
7/31 (水)	<p>ホテル…… 福知山市議会視察 ^{10:00~11:30} …………… ^{徒歩} 福知山駅 (13:13発)</p> <p>^{丹鉄宮福線} ⇒⇒⇒(14:02着)宮津駅 (14:10発) ^{丹鉄宮舞・宮豊線} ⇒⇒⇒</p> <p>(14:16着)天橋立駅…………宮津市内(宿泊)</p>	<p>京都府福知山市議会</p> <p>所在地 福知山市字内記13-1</p> <p>電話番号 0773-24-7031(事務局)</p> <p>調査項目 1 AI・ICTを活用したスマートシティ構想について</p>	<p>オーベルジュ天橋立</p> <p>所在地 宮津市文珠91-1</p> <p>電話番号 0772-22-0650</p>
8/1 (木)	<p>ホテル ^{徒歩} ……天橋立駅(8:46発) ^{丹鉄宮舞・宮豊線} ⇒⇒⇒ (8:51着)宮津駅………… ^{徒歩}</p> <p>宮津市議会視察 ^{10:00~11:30} …………… ^{昼食・街並み視察} 宮津駅(15:32発) ^{丹鉄宮福線} ⇒⇒⇒ (16:26着)</p> <p>福知山駅(16:50発) ^{バス・伊丹空港線} ⇒⇒⇒ (18:15着)伊丹空港(19:55発)</p> <p>⇒⇒⇒(21:10着)仙台空港 ^{JAL2215便}</p>	<p>京都府宮津市議会</p> <p>所在地 宮津市字柳縄手345-1</p> <p>電話番号 0772-45-1639(事務局)</p> <p>調査項目 1 観光戦略について</p>	

令和6年度 青雲倶楽部会派視察報告

令和6年度青雲倶楽部視察研修を次のように実施しましたので報告します。

名取市議会 議長 長南 良彦様

令和6年8月23日

青雲倶楽部 代表 山田 龍太郎

会派 青雲倶楽部 7名

佐藤 繁樹 鈴木 英信 寺嶋 雅子 二階堂 充

熊谷 克彦 大泉 徳子 山田 龍太郎

記

1 日時 令和6年7月30日（火）～8月1日（木）

2 視察先及び視察項目

① 兵庫県伊丹市 7月30日

伊丹市立図書館ことば蔵について

② 京都府福知山市 7月31日

AI・ICTを活用したスマートシティ構想について

③ 京都府宮津市 8月1日

観光都市戦略について

3 青雲倶楽部代表所感（全体考察）

伊丹市の図書館（3代目）は、平成24年（2011）7月に開館しその愛称を「ことば蔵」とした。蔵書は37.8万冊である。「ことば蔵」のコンセプトは「図書館機能」「交流機能」「情報発信機能」として公園のような図書館を目指している。「交流機能」としては1階に交流フロアがあり、利用者の皆さんと一緒に考える「ことば蔵交流フロア運営会議」を開催し年間200回以上の企画を運営している。このイベントを通じて図書館の役割が増大し、地域活性化にも貢献している。図書館で人と出会い、本と出会い、一人ひとりの情操が育まれ心豊かな人生を歩む一助になり得る取り組みであると認識したところである。また、田辺聖子名誉館長のコーナーを設けたり、親子で絵本等を見られるコーナーを設けたり細やかな設定をしていることも参考になったところである。

福知山市スマートシティ構想では、市民の安全安心につながる防災アプリを作成している。防災情報や地域の危険情報、避難情報も提供できるようになっており、人口74000人のうち27000人がダウンロードしており、普及率が高い。また、消防団にタブレットを貸与し、地域の浸水情報等を市へ提供

できる。双方向型で情報のやり取りができることは市民の安全安心の確保につながるものと思慮した。市民と情報を共有することが防災減災につながるものと思われる。また、学校と連絡できるアプリが作成され、学校だより等の情報についてはアプリでみることができる。このアプリで急に熱が出て学校を休む等の連絡もすることができる。ギガスクール構想で児童生徒にタブレットが配布されているが、そのタブレットを活用し図書館にある電子図書を利用できるようになっている。本に親しむ有効な手立てと思慮する。健康アプリも作成し現在6500人が利用しているとのことである。このビッグデータを活用すれば、将来的には健康寿命を延ばす方策になるものと期待している。福知山公立大学と連携し生成AIの活用に取り組もうとしているが、今後新たなデジタルの推進が各方面で行われ行政サービスの向上が図られると思慮した。

宮津市では観光戦略課を設け、その課長はJTBからの出向である。観光戦略を策定するにあたって各種データがないというのが困難であったとのことである。満足度、消費額、外国人宿泊者数等具体的な数字を把握し目標設定をしていったとのことである。見る観光について誘客を図るとともに、体験型観光について取り組もうとするが、農業体験でもノウハウを確立するまで困難な面もある。誘客に向けて国等の補助制度を活用し設備を新しくしたホテルなどもある。広域DMOで各市町村連携のうえ「海の京都」をテーマにして誘客に取り組んでいる。インバウンドについては、個人観光客の増に向けSNSやGoogleビジネスを活用して情報発信し予約等もできるようにしている。また、外国にある旅行代理店の方々を招待し観光の場所を実際に体験してもらう。このような個人、団体と二本柱で誘客の増に取り組んでいる。観光は幅広い産業なので地域で展開する必要があるとのことである。

3市の研修で得た内容を参考に議会活動の中で提言等をおこない、市民福祉向上や地域活性化が図られるよう活動をおこなっていきたい。

令和6年度青雲倶楽部視察研修報告書

伊丹市立図書館 ことば蔵



研修日時：令和6年7月30日（火曜日）13日30分～

研修先：兵庫県伊丹市 市立図書館本館 ことば蔵

調査項目：伊丹市立図書館 ことば蔵の取り組みについて

報告者：大泉徳子

【伊丹市の概要】

兵庫県の南東部に位置し、市域面積 25.00 km²を有する。

神戸市より約 20 km、大阪市より約 10 km圏域。尼崎市・西宮市・宝塚市・川西市・大阪府池田市及び豊中市に隣接している。鉄道は、JR 福知山線（伊丹駅、北伊丹駅）と阪急電鉄伊丹線（伊丹駅、新伊丹駅、稲野駅）があり、大阪・神戸及び阪神地域の都市と結び山陽新幹線が市域の南部を東西に通過している。道路は、国道 171 号が市の中央を東西に横断。中国自動車道及び国道 176 号が市域の北部を東西に通過している。

東には大阪国際空港が立地。

甚大な被害を受けた阪神・淡路大震災では、人的被害とともに市民生活や市の産業活動にも大打撃を受けた。令和 4 年 11 月に開庁した新庁舎は高水準の耐震性を確保し、災害等発生時にも復旧復興拠点としての機能を有する。令和 6 年 7 月 1 日現在の人口は 195,222 人。人口密度は 7,809/km²と県内では尼崎市に次いで 2 位。

令和 6 年度一般会計当初予算額は 870 億円。



【伊丹市立図書館本館 ことば蔵の概要】

市内には本館のことば蔵以外に、南分館、北分館、西分館、神津分館を有し、ことば蔵は現在地に（以前は造り酒屋があった）平成24年7月開館。西分館は大型ショッピング施設に、神津分館は複合施設に設置。



風情ある街並みと、ことば蔵

市の中心地に位置することば蔵は、街並みの景観に溶け込むような蔵をイメージ。蔵書数は約40万冊。内閉架は20万冊。



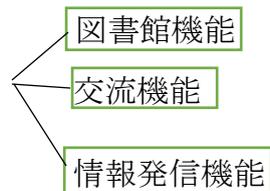
令和5年度 ことば蔵統計データ
 来館者数:343,350人(747,514人)
 貸出者数:246,194人(533,931人)
 貸出冊数:649,180冊(1,474,240冊)
 ()内は市内図書館合計数

【ことば蔵の注目すべき特徴ある取り組み】

①コンセプトは・・・「公園のような図書館」
 ==ことばを介した読書と歴史
 誰もが気軽に訪れる事が出来る図書館==

②特徴ある図書館機能

- ・25万冊まで収納可能な閉架書庫
蔵書は自動管理システム
- ・「伊丹作家コーナー」を設置
元名誉館長である田辺聖子氏と宮本輝氏の著書や原稿等を展示
- ・「ヤングアダルトコーナー」を設置
市内の高校生が参画運営。高校生の視点で同世代に注目される書籍をラインナップしている。



閉架書庫蔵書のリクエストは自動で出庫

③特徴ある交流機能

- ・「交流フロア運営委員会」を設置し、市内学校、地域団体、ボランティア等との共同事業の発案と実施に取り組み、市民が「いつでも・気軽に」事業に参画出来る仕組づくりを行っている。広いスペースを確保した交流フロアで毎月第一水曜日に運営会議を開催。気軽に参加できるオープンな会議を目指している。
発案された企画は読書、文化、歴史等に関する企画。交流フロアで実現

可能な内容。市民の学習お交流のためであることが原則。

これまで年間 200 回以上の企画を実施している。

例えば・・・ビブリオバトル、カエボン部活動、市内企業との連携講座、大学との連携講座、地域との連携でお祭り開催、夏休みラジオ体操会と多岐にわたる内容である。

人件費を含め年間 150 万円の予算措置。

運営会議は固定メンバーと企画者、ふらっと立ち寄りの方が半々。

中でも「カエボン部」は「カエボン棚」を企画運営。市民が読み終えた自分の本の“帯”に感想やオススメポイントを記し

カエボン棚の本と交換することができる仕組み。



あらゆる世代が利用している
カエボン棚

④特徴ある情報発信機能

令和 4 年 7 月より、本の貸出状況や延長・予約などができる「インターネットサービス」を全年齢で使える様に変更。

「読書チャレンジ機能」も備え、目標読書冊数と期間を登録し達成度をネット上で管理できる。

この様な協働と運営の工夫により各賞を受賞

ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2016 大賞

「図書館を使った学べる学習コンクール」において総務大臣賞



【 質 疑 / 応 答 】

- Q. コロナの前と後で利用者に変化は。
- A. イベント時なども来館者数は減のままである。交流フロア支援者の状況も変わりつつあり、以前とのやり方を見直す必要を感じている。
- Q. 交流フロア運営委員の構成はどのような方々か。
- A. 固定した市民ボランティアと流動的な参加者が半々。イベントは市民が持っている知識ややりたいことを市がサポートし企画開催。
- Q. 電子書籍の導入は。
- A. 今年の10月1日より「子ども電子図書館」をオープン（導入）
学校から貸与のタブレット端末を利用する。IDカードも必要。
- Q. 書籍の購入はどのように決めているのか。
- A. 市民からのリクエストを基に司書が選出。
- Q. 本の通帳とは。
- A. 紙ベースで作ってある。自身で記入し読書履歴を残す。

【 所 感 】

伊丹市の中心地に位置する「ことば蔵」は、風情あるまちに溶け込んだ佇まいで出迎えてくれた。夏休み中ということもあり、多くの子どもや親子連れが思い思いに読書を楽しんでいた。朝は、交流フロアにてラジオ体操会が行われており、その後は、そのまま図書館で夏休みの宿題をどうぞ。という狙いがあるとの事。図書館が特別な場所ではなく生活の中で身近な場所になる工夫がされている。

名取市において図書館の年代別実利用者数をみると、令和3年度で、各年代平均約1,500人だが13～15歳、16～18歳はそれぞれ約350人と極端に低い。

中高生時代は、部活動や受験といった多忙な年代ではあるが、ことば蔵が設置している「ヤングアダルトコーナー」は、この年代が主体となって同世代向け本のラインナップを行っていることもあり、本離れに工夫した策が講じられている。本市でも取り入れたい連携策である。

また、特徴ある事業の一つとして「交流フロア運営事業」がある。本に直接関わらないイベントも開催。例えば、市内の企業との連携事業では、航空会社の出前講座を開催。空に関する仕事への興味や理解を深めている。本市も空港が

所在するまちとして大いに参考になる。

「カエボン棚」も興味深い。同じ本が蔵書としてあっても、読んだ方のメッセージ入り本と自分がメッセージを込めた本が棚に並び誰かの手に渡る。ワクワク感とSDGsに考慮されていると感じた。

名取市立図書館では「図書館友の会・なとと」が図書館ボランティア団体として活躍している。本離れ・読書離れが懸念されるいま、議会からも今後の幅広い事業展開や政策に繋がる様、今回の視察を参考に提言したい。

令和6年度 青雲倶楽部行政視察

視察先 京都府福知山市議会視察

日時 令和6年7月31日(木) 午前10時～午前11時30分

調査事項

AI・ICTを活用したスマートシティ構想について

福知山市概要

- ・令和6年7月1日現在 人口 74,907人。面積552.54km²。
- ・議員定数 24人
- ・平成18年1月に1市3町合併 新しい「福知山市」スタート。
- ・京都市から60キロ、大阪市から70キロ、国道9号や舞鶴若狭自動車道 JR山陰本線・福知山線、及び京都丹後鉄道宮福線など北近畿の交通の要衝
- ・明智光秀、この地を平定し従前の横山城を大修築し福知山城とする。城下町として栄える。
- ・市街地を一級河川である由良川があり大雨時洪水・水害発生が多い。

調査事項 AI・ICTを活用したスマートシティ構想について

福知山市 デジタル推進課 課長 藤田 正美 説明

1 事業実施に至る経緯について

(1) 国の動向

- ・平成28年に新たな社会としてスマートシティへの取り組みを推進。
- ・令和2年自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画の策定

(2) 京都府の動向

- ・令和2年 京都府スマート社会推進計画の策定

(3) 福知山市の状況

- ・令和3年度「スマートシティふくちやま推進計画」を策定
令和4年度策定の「まちづくり構想 福知山」を上位計画とする。
福知山市版「自治体DX推進計画」
計画期間 令和4年度～令和8年度 5年間
スマートシティ構想の推進
- ・大雨による水害
平成16年台風23号 平成25年台風18号
平成26年8月豪雨 平成29年台風21号
平成30年7月豪雨

・福知山市公立大学

平成28年4月開校 令和2年4月情報学部新設

2 事業の内容及び成果について

(1) 基本理念

- ・「いつでもどこでも」をキーワードにスマートなまちづくり

(2) 基本方針

- ・ICT等を活用した安全安心な都市
- ・ICT等を活用した市民サービス向上

(3) 重点項目

ア 防災分野

- ・消防団との情報共有（消防団にタブレット端末貸与）
- ・防災アプリの導入
- ・浸水センサーの設置
- ・災害時ドローン活用

イ ハイブリッド窓口

- ・オンライン申請（放課後児童クラブ申請、健康診断の申請等）
- ・使用料、施設利用料等キャッシュレス決済導入
- ・市民課 書かない申請

(4) ターゲット世代は子育て世代

- ・タブレット端末の活用（ドリル等）
- ・保護者への配布物の電子化と情報共有
- ・電子図書館（導入済み）

(5) 分野ごとの取り組み

ア 教育

- ・福知山公立大学連携による小中学校プログラミング教室等

イ 防災

- ・統合型GISを活用した災害状況の共有
- ・災害時ケアプラン作成システムの導入

ウ モビリティ

- ・市バスローケーションシステムの検討

エ 産業

- ・オープンデータの推進
- ・デジタル地域通貨の導入

オ スマートアグリ

- ・有害鳥獣可視化システム導入

カ 医療・福祉

- ・健康アプリの導入（6500人）

キ 公園

- ・オンライン予約の検討

ク 観光

- ・オンラインバスツアーの催行

3 課題及び今後の取り組みについて

(1) 課題について

ア 申請手続きのオンライン化と利用率

- ・簡易な手続きのオンライン化は進んだか、添付書類や関連手続きを必要とする行政サービス利用のオンライン化が遅延。

イ 民間企業との連携

- ・人口規模等で試験導入ができない業務も多かった。

ウ 費用対効果

- ・費用対効果を考慮して実施が進まないものがある。

エ 職員の業務負荷

- ・新たな施策を検討する余裕がない課等もある。

オ データの集積・分析・連携

- ・健康アプリ参加者のデータ集積と健康行動の分析等

(2) 今後の取り組み

- ・生成AI活用の検討
- ・DX推進員の育成等

◎各議員より質疑概要

質→防災アプリの利用が多い要因について

答→自治会（町内会）は自分の地域の防災計画を作る必要がある。その計画を作る際、担当課で自治会に赴き、防災や避難等について説明するが、防災アプリについても説明をし、ダウンロードをお願いしている。防災アプリを活用することによって、安全安心につながる情報を入手できる。このため利用者が多い。

質→統合型GISを活用した被害状況等の把握について

答→例えば、消防団の方が地域の浸水状況等の写真を撮り、そのデータを消防本部かデジタル政策推進課に送付し、その写真（データ）を一度確認のうえ、地図に掲載をする。掲載することによって市民との情報の共有化が図られる。プライバシー等あるので、自動での掲載にはなっていない。

質→外部への情報発信と内部のみとする判断基準について

答→プライバシー等に問題なければ、浸水状況等公表している。たとえプライバシーなどにより公表できなくても内部でデータが蓄積できるので意義あることと捉えている。

また、安全安心のため、どのような時点で事前に通行止め等の情報を発信するか現在課題となっているところである。

質→消防団へのタブレット端末の貸与状況について

答→消防団27分団ありその分団長に1台貸与している。

質→有害鳥獣可視化システム事業の監視カメラ配置状況について

答→カメラの台数までは把握していませんが、福知山市内3か所をモデル事業として取り組んでいる。

質→猟友会会員等との情報共有化について

答→可視化システム事業では、熊・イノシシが出た等の情報発信ではなく、電気柵はこのように設置するとか、檻はこのように場所に置くなどの情報を発信している。

質→DX推進員の育成方法について

答→IT専門家と委託契約をし、研修を行い職員の人材育成に努めている。毎年10名、5年間、50名を育成したいと考えている。

業務の手順が見える化しDXを推進する。職員からの提案もあるが、予算等により困難な面もある。

質→DXを推進するにあたって各課との連携について

答→各課からDX推進員が研修等に参加しているので、研修時に幅広く意見交換が行われる。このようなことを行い連携が図られていると認識している。

質→DK推進計画におけるDX推進員の役割について

答→市役所内外で業務のDXを進めるが。そのためのDX推進員である。

質→保護者への配布物電子化の概要について

答→学校との連絡ができるアプリがあり、子供ごとに保護者だけが入れるアプリである。学校日より、保健だよりもアプリで見られる。警報が出て休校になるとか下校時間に変更になりました等の連絡も入る。また、子供が熱出して休みますとかもこのアプリで学校に連絡できる。

質→電子図書館の蔵書について

答→図書館のホームページの中に、電子図書館が入っている。一般向けと子供向けの図書が入っている。子供たちが利用しているタブレットに子供全員にアカウントを設定し、学校の朗読の時間に利用できるようになっている。

質→福知山大学と連携して開発する計画は

答→福知山大学に生成AIで有名な先生がいる。具体的な計画はないが大学側でもサークルが立ち上げっており、一緒になって考えたりする中で取り組めるも

のが出てくると考えている。

質→有償運送している鬼タクとは

答→大江まちづくり住民協議会が実施主体となって取り組んでいる事業。大江地区は過疎化・高齢化が進んでおり、マイカーで送迎を行っている。営利とならない料金設定である。

考察

福知山市におけるスマートシティ構想については、国や県との動向を図りつつ、地域特性をふまえてスマートシティを構築しようとしている。一級河川由良川が流れていることもあり、水害・洪水等が多いので防災の面でのデジタル化を推進している。統合型GISや防災アプリ、そして消防団にタブレットを貸与している。今までは、市等から住民への防災・減災情報の発信が主であったが、地域の浸水状況や被害状況等の情報が市や消防本部等に送付されるシステムができ双方向型となっている。防災・減災に向けて、防災アプリは地域住民からの情報提供も可能なので大きな役割を果たすと理解したところである。

子育て世代を対象として、学校と保護者が連絡できるアプリがある。学校日より、保健日よりアプリで情報が伝達される。紙での配布がなくなり学校・保護者とも負担の軽減が図られている。ギガスクールでのタブレットを活用しそのタブレットにアカウントを設定して、図書館に児童・生徒の電子図書がある。読書は、情操教育や読解力の増、さらには生徒の問題行動の減少にもつながると言われている。生徒が自ら図書を選択し、生きる力を増進し確かな学力の向上にもつながっているものと理解をしたところである。

福知山公立大学には情報学部があり、生成AIに造詣の深い有名な先生もいる。今後、福知山市で業務の見直し、ビッグデータの活用、市民サービスの向上を図る際に同大学との連携により大きな成果を出すと思われる。また職員のDX推進員の育成にも大きな役割を果たすと思われる。

福知山市での研修で得た、防災アプリ、学校との連絡用アプリ、児童・生徒関連の電子図書等参考にすべき事項等多々あるので議会等を通じて提言提案等を行っていく。

名取市議会 青雲倶楽部 会派視察研修報告書

8月1日(木) 京都府 宮津市議会 10:00~11:30

対応者	宮津市議会	松浦登美義	議長
	宮津市議会事務局	井上 晴登	議事調査課長
	宮津市産業経済部商工観光課	藤原 健二	課長
	宮津市産業経済部商工観光課観光係	青木 学	観光戦略担当課長
	宮津市産業経済部商工観光課観光係	森山 領介	係長

【宮津市の概要】

京都府の北西部、丹後半島の付け根に位置する宮津市は青い海と緑の山々に囲まれた自然豊かで風光明媚なところであり、日本海の宮津湾に位置する『天橋立』は宮津市のシンボルとして陸奥(宮城県松島町)の『松島』、安芸(広島県廿日市市)の宮島(厳島)とともに日本三景とされており、一年を通して多くの観光客が世界中から訪れている市である。

面積:172.74 km² 人口:16,151 人 世帯数:8,187 世帯

市木:くろまつ 市花:みつばつつじ

(歴史)縄文・弥生・古墳時代からの長い歴史があり、奈良時代以降は丹後地方の政治・経済・文化・宗教の中心地として、また江戸中期には北前船西廻り航路の寄港地として栄えた地である。

(交通)鉄道は京丹後鉄道が乗り入れをしており、宮福線(宮津駅、宮村駅、喜多駅、辛皮駅)、宮舞線(宮津駅、栗田駅、丹後由良駅)、宮豊線(宮津駅、天橋立駅、岩滝口駅)と三つの路線がある。また道路は有料の京都縦貫自動車道(宮津天橋立 IC)と無料の山陰近畿自動車道(与謝天橋立 IC、京丹後大宮 IC)

(沿革)宮津町、栗田村、吉津村、府中村、日置村、世屋村、養老村、日ヶ谷村が合併し、昭和 29 年 6 月 1 日市制が施行された。

(産業)農林水産業…水稻を主体として、花き、山の芋などの地域特産物の生産、定置網漁業を中心とした沿岸漁業が営まれている。

商工業…ニッケルの製造、メリヤス生地製造などの工場や海産物加工が主なものとなっている。

観光…北近畿の観光拠点として、年間約 300 万人の観光客が訪れている。

天橋立をはじめとした既存の観光資源に加え、日本遺産に登録された北前船や、細川忠興、細川ガラシャゆかりの城下町としての歴史を生かした滞在型観光地への転換を進めている。

(特産品)安寿みかん、オリーブ、コギク、丹後コシヒカリ、山の芋、あさり、岩がき、ジャコ、とり貝、松葉ガニ、乾燥なまこ、黒ちくわ、智恵の餅、へんごさ餅、宮津焼など。

【当日次第】

1. 開会
2. あいさつ 宮津市議会議長 松浦登美義
名取市議会 青雲倶楽部 代表 山田龍太郎
3. 視察事項 ○観光戦略について
 - (1)事業実施に至る経緯について
 - (2)事業の内容及び成果について
 - ・観光における課題(観光資源の活用、観光環境、観光情報の発信、市民活動、経済効果)の具体的取組
 - (3)課題及び今後の取り組みについて
4. 閉会 名取市議会 名取維新 代表 今野慎介

【概要説明】

宮津市観光戦略策定の目的とは観光関連業者や地域が、持続的な地域づくりに向け考え方や方向性を共有するとともに、お互いの役割、推進体制を明確にして全体が一丸となって取り組む為の指針として作成をした。

まず初めに取り組んだのが、宮津市における観光に関するデータの見える化である。

○宮津市の現状

1. 観光消費単価 (宮津市) R1 3,396円(宿泊単価 9,292円)
R3 8,850円(宿泊単価 23,547円)

令和3年からは実態に即した数値把握の為、宮津市独自の新基準を定め、消費額アンケートを実施し、精度の向上を目指している。

2. 通過型観光地である事。日帰り客 80% 宿泊客 20%
3. 宮津市経済に占める観光産業の割合は 7.7%と全国平均の 2.0%に対して高い。
4. 宮津市を観光で訪れる際重視した事は景色・景観・温泉・グルメの順。

5. 訪問意向は天橋立の認知度の高さから全国の観光地訪問意向の平均値より高いが、再び訪問するや他人に薦めるといった以降は低いことが分かった。その理由としては、駐車場が少ない、または料金が低い。飲食店が少ない。交通の便が悪い。観光スポットが少ないなどであった。一方で宿泊客の満足度が向上しており「地域の料理・食材」のスコアが上昇。データの見える化を行った結果、課題が浮き彫りとなり、何に絞って改善をするかを共通認識する事が出来た。

○目指す姿とキャッチコピー

訪れた人々が多くの感動に出会い、羽を休める場所として独自の地位を確立する事をコンセプトに以下のキャッチコピーを掲げた。

**京都が憧れた海がある。
天にも昇る、旅ごち。 宮津天橋立**

- 重点事項…滞在時間を延ばす事で観光消費額の向上、顧客満足度の向上に向け以下の目標を掲げた。

KPI(重要達成度指数)【令和7年〈2025年〉】

- 重点①観光消費額(R1)109億円⇒**125億円**へ
- 重点②顧客満足度 大変満足(R3)33%⇒**40%**へ
 - ・入込客数(R1)321万人⇒**350万人**へ
 - ・宿泊客数(R1)64.9万人⇒**80万人**へ
 - ・外国人宿泊者数(R1)5.4万人⇒**10万人**へ

※目標を定めたのち観光産業に携わる皆さんの役割分担を明確にする事とした。

①観光事業者の役割

…来訪者の満足度と消費額の向上に向け宮津市の魅力を最大限に生かした高付加価値なサービスの提供。

②市民の役割

…地域づくりの主役として、魅力的なまちづくりを心がける、またその魅力を来訪者に発信する。

③宮津市(行政)の役割

…客観的な視点で観光戦略を考え、観光がもたらす経済・文化・定住・コミュニティ活動の活性化など地域への波及効果を生み出す取り組みをする。その為の財源確保や誘客促進の支援及び公共インフラ整備などを行う。

④観光戦略推進チームの役割

…観光事業者を取りまとめ、行政との橋渡し役を担うと同時に持続可能な観光地域づくりに向けてPDCAサイクルを廻すなど観光戦略の推進を主体的に担う。

※役割分担を明確にして、ガイドラインの作成に取り組んだ。

○観光戦略のガイドラインとその取り組み

戦略1 国内・インバウンド共に「海の京都」エリア全体での集客。その中心地として宮津市への立寄り客数の底上げを目指す。

(施策) ①集客・マーケティングの強化。

②インバウンド事業の推進。

戦略2 観光消費単価、訪問客の満足度の向上を目指す。

(施策) ①既存観光地の認知と来訪意向の向上。

②関係人口化・ファン化を見据えた新たな観光資源の開拓。

③食のブランド強化とガストロノミーツーリズムの推進。

④4大温泉のブランド強化

戦略3 世界から選ばれるSDGsな観光地域の実現を目指す。

(施策) ①持続可能なマネジメントを支える体制・人づくり。

②SDGsな観光地としてのブランド化。

○スケジュールと観光戦略の進め方

中長期的な視点を持ちつつ、単年度の実施計画も策定し、観光ガイドライン各々の役割分担に基づき観光戦略チームが中心となり、出来る事から具体的な取り組みを推進していく。またコロナ後の対策として国内旅行中心の観光V字回復事業も継続的に実施していく。

【質疑応答】

Q. 7市町で設立した海の京都DMOが、うまく機能している様に感じるが、その理由を教えてください。

A. DMO設立前に京都府では観光客が京都市のみならず府内全域を周遊して欲しいと考えた。当時の京都府の副知事が中心となって働きかけを行った。宮津市においても行政のみならず、観光に携わる方や銀行の方、商工会の方などあらゆる分野の方々にこのDMOに参画をしていただいた。また7市町で定期的に意見交換をして現状の把握に努めている点がうまく機能している理由と考える。

- Q. グーグルビジネスを活用した世界に向けて行っている情報発信の具体例があれば教えていただきたい。
- A. まずグーグルマップに活用したきっかけは、世界中に多くのユーザーがいる事。また日本語で登録しても閲覧したユーザーの言語に変換をしてもらえ、インバウンド向けにも発信できるツールとして完成していて、無料で使用できるのが活用をしている理由です。
- Q. 女性層向けの観光サービスの開拓と育成に関してのみ有志との記載があるが(その他は具体的な地区名や関連業者との記載あり)情報を発信する立場にいる女性が有志で立ち上がっているのでしょうか？
- A. 実態で申し上げますと、女性の会は現在立ち上がっておりません。現状において観光会議を開いても男性の参加者が多く、女性目線の観光までは正直行き届いていないという事もあり、女性の集まりを作って積極的な意見交換の場を作りたいと考えております。各施設や各地域にはリーダー的存在の方々もたくさんいて、その方々から意見をヒアリングしたりして、女性目線の意見を伺い、施策に反映させていこうという取り組みの途中の段階になります。
- Q. 観光戦略を立てるにあたり現状の分析など丁寧に行っている印象を受けました。その分析結果をもとにグーグルビジネスにより事業者の育成(レベニューマネジメント)を行っているがその取り組みの成果など実感はありますか？
- A. 4年前に宮津市に来た時は観光の現状を把握する蓄積少なく、観光事業者のこれまでの経験を踏まえた情報の収集をし、データの可視化を目指した。事業者さんは分かっている事でも改めてデータを可視化することによって、問題点の改善を行った。当然関心の低い方もいたが、2年前からDXの取り組みをし、少しずつではあるが、前向きになってきた事業者さんが増えてきているという実感がある。また宿泊施設の部屋数を少なくし、ラグジュアリー化を進めた結果、宿泊単価も上がっている事も手応えを感じている点である。部屋数を少なくしたのはコロナ後に従業員を確保するのが困難であった為、サービスが行き届かない事が懸念された事、また収益を確保する為に、ラグジュアリー化進めざるをえなかった背景もある。
- Q. たくさんの外国人観光客が来られている中で、文化の違いなども含め観光戦略を立てるにあたり、把握している問題点はありますか？

A. オーバーツーリズムとまではいかないが、宮津市から伊根町までの移動手段がバスしかなく、地元民の利用に支障が出ていることから、DMO が観光庁の事業採択を受けて、船での輸送の実証実験を開始している。

Q. さらなる観光客が増えてくるにあたり、何か対策を講じているものはあるのか？

A. 台湾から来る観光客はリピーターが多く、また何となくではあるが漢字をみてある程度は理解出来ている部分がある。逆に欧米からの観光客はやはり英語圏なので、案内やガイドなど多言語化はさらに進めていくべきと考えている。また対策などを協議する観光戦略チームがあり、そこで協議をして対策をしている。

Q. 京都市を訪れる観光客は多いが、その方々を宮津市に足を延ばしてもらえる方策などあればお伺いしたい。

A. 観光会社に天橋立をルートにしている観光プランがある国もある。観光プランに宮津市が組み込まれていない場合にはこちらからプロモーションをかける。例えば現地のインフルエンサーさんの活用や、その国の観光会社さんを宮津市に招待し、実際に観光を体験してもらう。またその際に観光ルートなどのプランを提案するなどして、少しでも多くの観光客が京都市から宮津市に足を運んでもらえる様な取り組みをしている。

【考察】

今回視察で訪れた宮津市は海と山に囲まれた風光明媚なところであり、日本三景『天橋立』という世界的にも有名な観光地ある。また文武天皇の勅願寺として建立された成相寺(なりあいじ)や伊勢神宮の元、天照大神と豊受大神と一緒に住まわれたと言い伝えのある元伊勢籠神社(もといせこのじんじゃ)、三人寄れば文殊の智恵でお馴染み、日本三大文殊の智恩寺などがあり、観光スポットには事足らない印象を受けた。

しかしながら国内、国外問わず多くの観光客が訪れる同じ府内にある京都市と比較をすると苦戦をしていると言わざるを得ない。その京都市から府内全域に足を運んでもらおうと当時の京都府の副知事が先頭になり、宮津市においても広域7市町で海の京都DMOを立ち上げ、現在の観光戦略に至っているとの事であった。

概要でも触れているが宮津市の観光戦略はまず自分自身の特徴や特色を踏まえたうえで、長所と短所を明確に捉え、観光に携わる方々が共通の意識をもって取り組んでいる事、そのデータを見える化をして戦略を練っている点が素晴らしいと感じ

た。また日々変化する観光客のニーズに遅れを取らない様に市独自の基準をもうけたアンケートを実施している事も忘れてはならない点である。

本市では東北の空の玄関口と言われる仙台空港を有しているが、宮津市の天の橋立の様な観光におけるキラークンテンツに乏しく、同じ日本三景の『松島』や仙台の奥座敷『秋保温泉』などに流れていく観光客が多く、通過する街という感は否めない。

まずは本市の観光における長所や短所を把握する事、またコト消費、モノ消費、トキ消費など本市でしか味わえない観光コンテンツの掘り起こしをまずはすべきである。そして本市の観光における特徴を把握し、データの見える化、そのデータを活かして市内の観光事業者や仙南4市9町で構成されている宮城創生DMOと意見交換をしながら、広域で観光客誘致に取り組む必要もある。そこに地域住民が主役となって魅力あるまちづくりをしていく事も重要であるのは言うまでもない。

また本市では宿泊施設などの絶対数も少ない点も懸念される事から、宿泊施設の誘致など民間活力の積極的な活用を検討する事なども必要になってくると考える。またアウトレットなどの商業施設など観光客が立ち寄りやすい施設の誘致もよいかもしれない。

今回視察研修で学んだ事を生かし、観光戦略を明確にして交流人口の拡大や観光産業の活性化など本市の発展に寄与すべく積極的に政策提言を行っていきたい。

【視察写真】



以上